

平均車齢、平均使用年数はいずれも最高齢に

財団法人自動車検査登録協力会(理事長 中田敏郎)は12月4日、「平成14年版わが国の自動車保有動向」(平成14年3月末現在における自動車の平均車齢、平均使用年数、世帯当たり普及等)を発行した。それによると、自動車の平均車齢は、乗用車6.23年、貨物車7.77年でいずれも前年より延び、当会が統計を取り始めた昭和49年以降で最高齢となった。自動車の平均使用年数は、乗用車10.55年、貨物車10.92年となり、平均車齢同様、いずれも過去最高となったが、延びは小幅にとどまっている。また、都道府県別にみた自家用乗用車(軽自動車含む)の世帯普及状況は、42道県で1世帯1台を超えた。

平均車齢(人間の平均年齢に相当。軽自動車除く)

乗用車の平均車齢は6.23年となり、平成7年12月に初度登録された車が平均となる。平均車齢を前年と比較すると0.19年延び、10年前の平成4年に比べて1.70年延びている。

車種別にみると、普通乗用車は5.63年で、前年に比べ0.41年延びた。普通乗用車は平成元年の自動車税制の改正以降大幅に若返りが進んだが、平成7年以降再び新車需要の延び鈍化等から高齢化が進んでいる。小型乗用車は6.56年で、前年に比べ0.11年の延びにとどまった。

貨物車の平均車齢は7.77年となり、平成6年5月に初度登録された車が平均となる。平均車齢を前年と比較すると0.29年延び、10年連続して高齢化し、昭和49年以降で最高齢となった。

車種別にみると、普通貨物車は8.41年で、前年に比べ0.26年延び、小型貨物車は7.46年で、前年に比べ0.31年延びており、いずれも延び幅の鈍化傾向が続いている。

平均使用年数(人間の平均寿命に相当。軽自動車除く)

乗用車の平均使用年数は10.55年で、前年と比較すると0.15年、10年前の平成4年に比べ1.24年いずれも延びている。

車種別にみると、普通乗用車は9.12年で9年を超え、前年に比べ0.46年延びた。小型乗用車は10.82年で、0.21年延びている。

貨物車の平均使用年数は10.92年で、前年と比較すると0.24年の延びにとどまり、乗用車との差は0.37年となった。

車種別にみると、普通貨物車は12.31年で、前年に比べ0.05年延び、小型貨物車も10.50年で、前年に比べ0.27年延びている。

自家用乗用車の世帯当たり普及、42道県が1台超える

自家用乗用車(軽自動車含む)の世帯当たり普及台数は1.094台で、前年に比べて0.007台増加している。

都道府県別にみると、世帯当たり普及台数が1台を超えているのは、今回新たに長崎県が加わり、42道県となった。普及台数の上位地域は福井と富山が1.693台でトップに並び、以下、群馬、岐阜、栃木、山形、茨城、長野の順で、これら上位8県では1.5台以上の普及となっている。

都市別(自家用乗用車保有台数上位200都市)にみると、世帯当たり普及台数の最も多いのは前年同様、西尾市(愛知県)の1.874台で、前年に比べて0.022台増加している。2位は小松市(石川県)で、以下、豊田市(愛知県)、可児市(岐阜県)、太田市(群馬県)、伊勢崎市(群馬県)、福井市(福井県)、鹿沼市(栃木県)、高岡市(富山県)、各務原市(岐阜県)の順となっており、1世帯に1台以上保有している都市は、前年同様125都市であった。

全自動車(登録車、軽自動車、小型二輪車の合計)の世帯当たり普及台数は1.568台で、前年と比較すると、0.005台減少している。

低公害車は8万4,000台に

電気、メタノール、CNG、ハイブリッドの低公害車の保有台数は8万4,155台で、全登録車の0.002%にすぎないが、前年の5万7,433台に比べ46.5%の増加であった。全体のうちハイブリッド車が88.2%を占め、前年に比べ46.8%伸びた。運輸支局別にみると、愛知が1万491台と唯一1万台を超え、以下東京8,764台、大阪5,762台、神奈川5,737台の順となっている。

わが国の自動車保有動向は、国土交通省の資料に基づいて当会が発行した「平成14年版 自動車保有車両数統計書」(平成14年3月末現在、全6冊)、「平成14年版 自動車流通統計書」と当会が構築した「汎用統計システム」を基に、関連する一部の外部資料を加え、わが国の自動車保有・使用実態を様々な角度から分析したものである。

〒104-0042 東京都中央区入船3-7-2 35山京ビル5階
財団法人 自動車検査登録協力会
電話03-5542-5101
<http://www.aira.or.jp/>